

2017年度

# 事業報告書

2017年4月1日から  
2018年3月31日まで



公益財団法人 日本科学技術振興財団



## 目 次

### 【事業活動】

1. 2017年度の事業概況.....	1
2. グラフで見る2017年度の事業.....	3
3. 事業の状況.....	4
I. [公益目的事業1] 科学技術館の運営事業.....	4
II. [公益目的事業2] 他館の運営管理事業.....	6
III. [公益目的事業3] 他館に対する活動支援事業.....	10
IV. [公益目的事業4] 科学技術系人材の育成事業.....	11
V. [公益目的事業5] 科学技術の普及啓発事業.....	12
VI. [公益目的事業6] 科学技術振興に関する調査研究事業、	
VII. [公益目的事業7] 科学技術の研究開発とその促進事業.....	13
VIII. [収益事業1] 情報システムの設計開発と運用サービス事業.....	14
IX. [収益事業2] 科学技術館施設の利用促進事業.....	15

### 【総合活動】

1. 当財団の組織.....	16
2. 代表理事及び業務執行理事の業務分担.....	16
3. 会議の開催.....	17
4. その他.....	18

## 【事業活動】

### 1. 2017年度の事業概況

#### I. [公益目的事業1] 科学技術館の運営事業

##### 1. 入館者状況

入館者数は約58万4千人、対前年度比108.7%。8月に開催した夏休み特別展が好評だったことと、10月から2月の団体入館者数が伸びたことで年間では約4万7千人の増加となった。

##### 2. 展示室の整備

- (1)「シンラドーム」 : 7月27日オープン(日本宝くじ協会助成事業)
- (2)「エレクトロホール<オーロラ・サイエンス>」 : 2016年、2017年と2箇年にわたり更新(JKA補助事業)
- (3)「ニュー・エレクトロホール<サイバー・リンク>」 : 12月22日オープン(JKA補助事業)。

※出展協力会社：日本電気(株)、日本電信電話(株)、(株)フジクラ、富士通(株)、パナソニック(株)、三菱電機(株)

##### 3. イベントの実施

- (1)ものづくり体験 「たたら製鉄実験」 : 11月19日開催(共催：日本鉄鋼連盟)
- (2)実験教室・イベント「日立サイエンスセミナー」「生物実験教室」「理研DAY」「夢化学-21」  
「日本IBM Tryscience実験教室」「ワケエコ・カーモデラー教室」等を社会貢献事業に関心の高い企業の協力を得て開催。
- (3)パネル展 「理化学研究所百年IN科学技術館」 : 3月17日～4月8日開催(共催：理化学研究所)
- (4)春休みイベント 「サイエンス か～みバル！」 : 3月20日～4月4日開催
- (5)夏休み特別展 「マズレチック・ランド」 : 8月5日～8月27日開催(日本財団助成事業)

##### 4. サイエンス友の会

科学技術館で実施する工作教室や実験教室、企業などの施設見学会等を計354回開催。

小学3年生以上の正会員と家族会員の延べ6,718人が参加。

##### 5. Can Satの開催 (ボーイング社助成事業)

CanSat“空き缶衛星”プロジェクトを中高生を対象として実施。国際大会を目指し4人の高校生を選抜し『国際大会ARLISS2017』に出場した。

#### II. [公益目的事業2] 他館の運営管理事業

##### 1. 所沢航空発祥記念館の運営 (埼玉県受託事業)

- (1)春、夏、秋に特別展を開催。( )内は入館者数。  
「日本-仏蘭西・百年飛行の旅」(1,821人)、「飛行機研究所から100年『航空技術のDNAの継承と進化』」(20,754人)「空にとキメキ展」(34,384人)
- (2)大型映像館上映作品に関連するイベントを開催。  
「さかなクン ギョギョッとお魚教室」「名探偵コナン謎解きチャレンジ!」「ディノアライブ」

##### 2. 青森県立三沢航空科学館 (青森県受託事業)

特別展「生き物から学ぼう!展」 : 7月15日～9月24日開催。  
生き物が持つ仕組みを利用した製品や技術を展示体験により紹介した。

#### III. [公益目的事業3] 他館に対する活動支援事業

- 1. 鳥取市博物館常設展示装置保守点検業務((公財)鳥取市文化財団受託事業)
- 2. 株式会社明治イベントツール制作 ((株)電通パブリックレーションズ受託事業)
- 3. プレアデス導入館に関する保守メンテナンス事業
- 4. 特殊投影用映像補正ソフトウェアインストール調整 (丸文(株))
- 5. 科学技術館シンラドームシステム更新
- 6. 特殊投影用映像補正ソフトウェア販売 (丸文(株))

#### IV. [公益目的事業4] 科学技術系人材の育成事業

##### 1. 青少年のための科学の祭典2017

- (1)全国大会 : 7月29、30日に科学技術館で開催。入場者数16,397人、出展数65。
- (2)地方大会 : 北海道から沖縄まで75市町村で開催。

##### 2. 国際科学オリンピックの開催

- (1)日本生物学オリンピック2017 : 予選3,849人の中から本選で日本代表4人を決定。
- (2)第28回国際生物学オリンピック : 世界64ヶ国241人参加、日本代表4人を選抜し全員銀メダルを獲得。

##### 3. その他

- (1)教員のための理科実験指導育成講座の開催 : 参加延べ135人((公財)東京応化科学技術振興財団助成事業)
- (2)少年少女創造性育成事業の実施 : ワークショップを科学技術館、熊本市で計2回開催。  
(公財)新技術開発財団受託事業)
- (3)ボーイングSTEMイベントの開催 : シアトル航空博物館サイエンスショー、ワークショップを科学技術館等3会場で開催。(ボーイング社助成事業)

## V. [公益目的事業5] 科学技術の普及啓発事業

### 1. 第58回科学技術映像祭（応募は25機関から43作品が出品）

(1)内閣総理大臣賞1作品、文部科学大臣賞3作品、部門優秀賞6作品、特別奨励賞1作品、ファウウェイ賞1作品の表彰式(4月21日)、入選作品上映会(4月20日、21日)を科学技術館サイエンスホールで開催。

(2)入選作品は、全国の14科学館で上映会を開催。

### 2. エネルギー・放射線等に関する理解促進事業

(1)中学校理科新学習指導要領による「放射線」教育を実施する教師を支援するために放射線教育支援Webサイト「らでい」を運用し、教員研修や放射線出前授業を実施した。

(2)「青少年のための科学の祭典」全国大会及び地方大会にエネルギー・放射線実験ブースを出展。

(3)文部科学省の放射線に関する教職員セミナー及び出前授業を全国の小・中・高等学校で142回実施し、2,241人が受講した。

(4)資源エネルギー庁のエネルギー教育推進事業を実施した。エネルギー教育に意欲的に取り組もうとする小・中・高等学校88校を「エネルギー教育モデル校」として選定し、エネルギー教育を実践させるとともに、エネルギー教育に関する副教材の配布、地域会議の開催、かべ新聞コンクール等を実施した。

## VI. [公益目的事業6] 科学技術振興に関する調査研究事業

## VII. [公益目的事業7] 科学技術の研究開発とその促進事業

1. 調査研究事業は、科学館、博物館等の来館者調査や科学技術リテラシー調査など。

2. 拡張現実技術「AR」を使ったサイエンスショーを科学技術館の新たな試みとして開催。

3. 広報活動は、「JSF Today」(季刊)および科学技術館メールマガジン(配信数11,058人)の発行、twitterによる情報発信(フォロワー数2,618人)を実施。

## VIII. [収益事業1] 情報システムの設計開発と運用サービス事業

### 1. 情報システムの設計開発

(1)データベース技術やネットワーク技術を応用した情報システムの設計開発

会計検査院、(学)産業能率大学、(株)ニッセイコム、(株)イセト、(株)片平エンジニアリング

(2)設計製造、製品管理関連ソフトウェアの設計開発：(株)電通国際情報サービス

(3)産学官ジャーナルアップロード支援：(国研)科学技術振興機構

### 2. 情報システムの運用サービス事業

(1)LMS(Learning Management System)の運用業務：中外製薬(株)、オムロン(株)

(2)通信教育Web受講申込システムの運用業務：(学)産業能率大学

(3)統計システムのデータ登録・運用業務：(職)日本技能教育開発センター

(4)会計決算システム運用業務：(学)産業能率大学

(5)成績報告サービス：通信教育団体

(6)金融系Webシステム運用業務：(株)イセト

## IX. [収益事業2] 科学技術館施設の利用促進事業

1階の展示・イベントホールでは、各種販売会、技術展、製品発表会、イベント等が開催され、2階のサイエンスホールでは、各種イベント、講演会、セミナー、研修会等に貸出をしている。

また、5階、6階の会議室の貸出し事業も行っている。

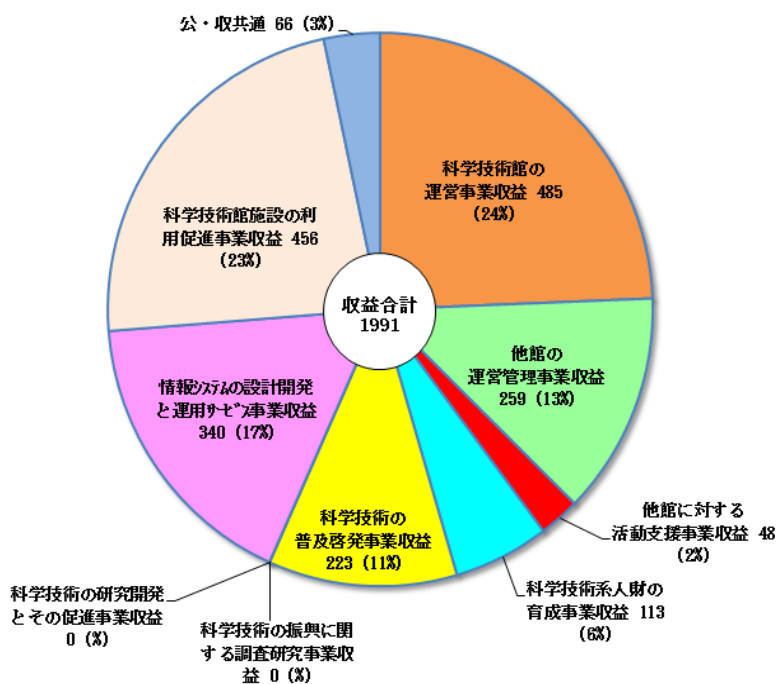
【収益事業1】、【収益事業2】は、公益目的事業実施の基盤となる重要な事業である。

## 2. グラフで見る 2017 年度の事業

### (1) 収益

2017年度収益 (単位：百万円)

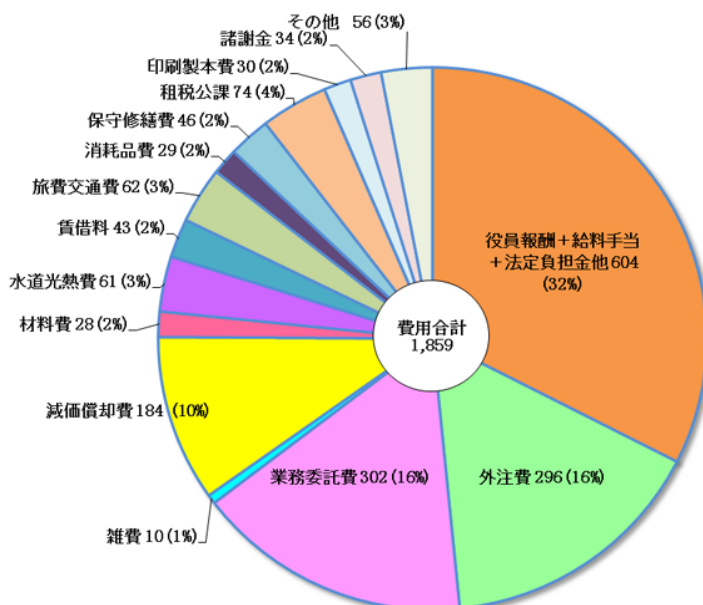
区分	科目	決算	予算
公1	科学技術館の運営事業収益	485	505
公2	他館の運営管理事業収益	259	259
公3	他館に対する活動支援事業収益	48	92
公4	科学技術系人材の育成事業収益	113	103
公5	科学技術の普及啓発事業収益	223	203
公6	科学技術の振興に関する調査研究事業収益	0	1
公7	科学技術の研究開発とその促進事業収益	0	0
収1	情報システムの設計開発と運用サービス事業収益	340	296
収2	科学技術館施設の利用促進事業収益	456	422
	公・収共通	66	62
合計		1,991	1,943



### (2) 費用(事業費+管理費)

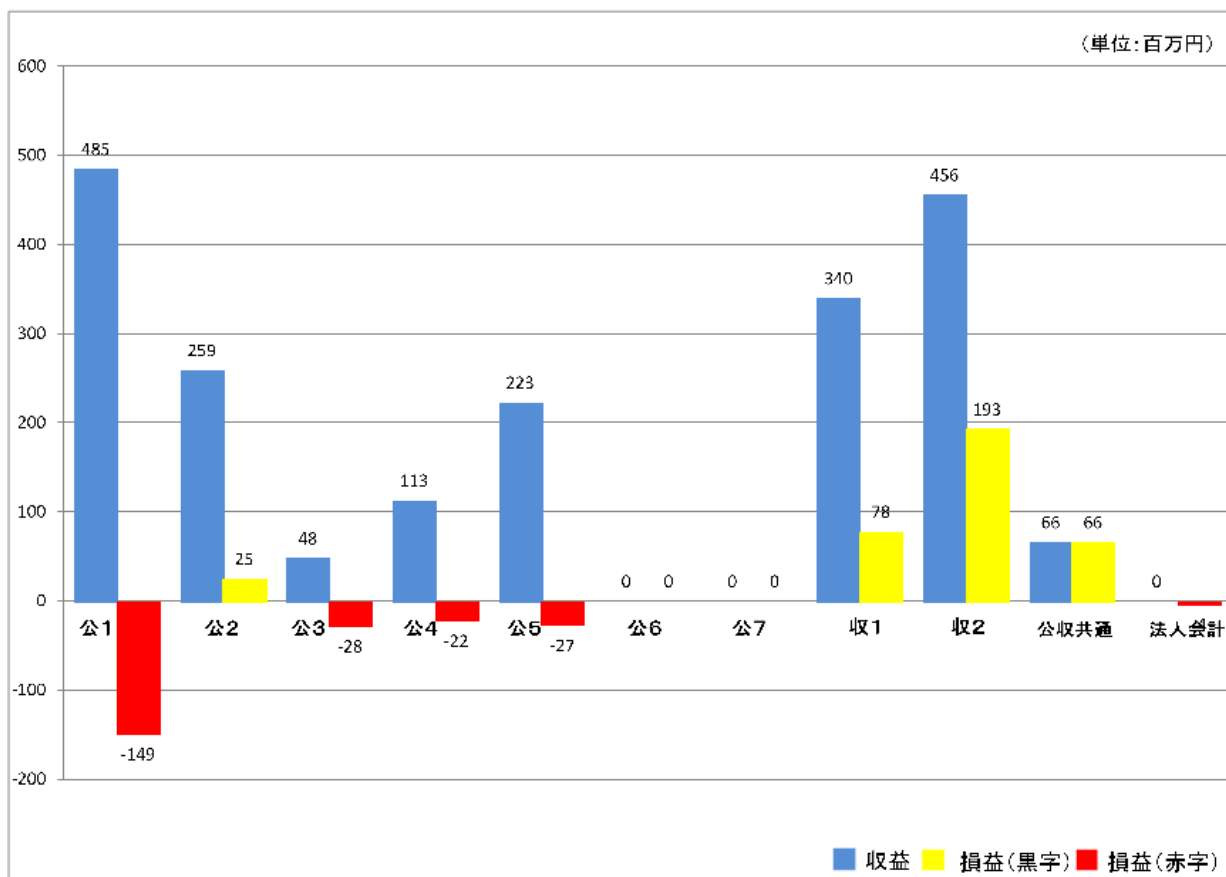
2017年度費用 (事業費+管理費) (単位：百万円)

科目	決算	予算
① 役員報酬+給料手当+法定負担金他	604	611
③ 外注費	296	310
④ 業務委託費	302	306
⑤ 雑費	10	13
⑥ 減価償却費	184	186
⑦ 材料費	28	27
⑧ 水道光熱費	61	64
⑨ 賃借料	43	49
⑩ 旅費交通費	62	52
⑪ 消耗品費	29	39
⑫ 保守修繕費	46	96
⑬ 租税公課	74	66
⑭ 印刷製本費	30	36
⑮ 諸謝金	34	26
⑯ その他	56	62
合計	1,859	1,943



### (3) 事業区分別の収益と損益

事業区分別の収益と損益



## 3. 事業の状況

### I. [公益目的事業1] 科学技術館の運営事業

次代を担う青少年を中心に、実際に「見て」「触れて」「試す」ことで楽しみながら理解できる体験型展示と多くの実験ショー・ワークショップを開催し、常設展示・特別展とともに、好奇心・探究心・創造性を育みつつ科学技術・産業技術の振興と理解増進に繋がる情報・知識の普及啓発活動を展開した。また、開館以来の事業である1年制の会員組織「サイエンス友の会」による工作教室・実験教室等をはじめ、ステークホルダーと連携した各種教室等を開催した。

#### 1. 科学技術館の運営

##### (1) 入館者状況

当年度の入館者数は約58万4千人となり、対前年度比108.7%と増加した。

8月に実施した夏休み特別展が好評だったことと、10月から2月の団体入館者数が伸びたことで年間では約4万7千人の増加となった。

<入館者状況比較>

	2017年度(人)	2016年度(人)	前年度比(%)
4月	37,289	41,304	90.3
5月	36,945	37,371	98.9
6月	34,392	28,506	120.6
7月	36,422	36,689	99.3
8月	67,754	59,885	113.1
9月	24,024	28,987	82.9
10月	41,613	35,783	116.3
11月	62,224	53,396	116.5
12月	63,359	53,280	118.9
1月	64,691	61,307	105.5
2月	71,697	60,184	119.1
3月	43,906	40,487	108.4
合計	584,316	537,619	108.7

**(2) 展示室の整備**

- ①日本宝くじ協会助成事業として新生「シンラドーム」を整備し、7月27日より公開した。
- ②JKA 補助事業として、「エレクトロホール〈オーロラ・サイエンス〉」の更新を2016年度、2017年度2箇年にわたり進めた。日本電気株式会社、日本電信電話株式会社、株式会社フジクラ、富士通株式会社、パナソニック株式会社、三菱電機株式会社の出展協力により、前年度の第一期展示ゾーンに、今年度は第二期展示ゾーンを加え、展示室「ニュー・エレクトロホール〈サイバー・リンク〉」として12月22日にフルオープンした。

**(3) イベントの実施**

- ①サイエンス友の会会員を対象に、日本鉄鋼連盟との共催で、ものづくり体験「たたら製鉄実験」を行い、11月19日に実施された製鉄イベントの様子を一般公開した。
  - ②社会貢献事業に関心の高い企業の協力を得て教室やイベント等を開催した。株式会社日立製作所による「日立サイエンスセミナー」、中外製薬株式会社による「生物実験教室」、日本アイ・ビー・エム株式会社「日本 IBM TryScience 実験教室」、日本カーモデラー協会及び一般社団法人日本自動車工業会「ワクエコ・カーモデラー教室」、国立研究開発法人理化学研究所「理研DAY」、「夢・化学-21」委員会「なぜなに？かがく実験教室」等。
  - ③国立研究開発法人理化学研究所との共催で、パネル展「理化学研究所百年 IN 科学技術館」を3月17日から4月8日まで開催した。
  - ④春休みイベントとして「サイエンス か〜みバル!」を3月20日から4月4日まで開催した。
  - ⑤公益財団法人日本財団の支援を得て、算数・数学をテーマとした展示物を制作し、8月5日から8月27日まで夏休み特別展「マスレチック・ランド」を開催した。
- また、特別展終了後、11月下旬より巡回展示物の一つとして運用を開始した。



#### (4) サイエンス友の会

電子工作や木工工作教室、化学や生物をテーマとする実験教室、パソコンの使い方を学ぶパソコン教室、北の丸公園など屋外での自然観察教室、企業の協力による施設見学会、STEAM 教育を導入した教室や、中学生以上を対象とした研究者等による専門教育など、各種プログラムを1年間にわたって計354回実施し、小学3年生以上の正会員と家族会員の延べ6,718人が参加した。

#### (5) ボーイングCanSatプロジェクトの開催

ボーイング社助成により、科学技術館開発のオリジナルSTEM教育プログラムとして、中高生を受講対象とした“空き缶衛星”の製作に取り組むCanSatプロジェクトを実施している。本講座の最終目標となる国際大会“ARLISS2017”への参加を進めるため、2016年9月に“ARLISS2016”への実地調査及び予行参加を行い、科学技術館スタッフチームはBest Mission Awardを受賞した。それらの成果を反映して2017年7月に4名の高校生をARLISS2017出場者として選抜した。出場者はCanSatの開発講座に4回にわたって参加後、2017年9月にARLISS2017に出場した。

#### (6) 巡回展の貸出

「ラ・ビレット展」、「マグネット展」、「トリックアート展」、「感覚・体感フィールド」、「科学捜査展」、「はかるのヒ・ミ・ツ展」、「科学捜査展 #SEASON2」、「マスレチック・ランド」等全国12か所の科学館を始めとする諸施設に貸し出し、各館のイベントとして実施した。

#### (7) 実験演示

9つの展示室に設けられた実験・演示コーナーにおいて、休館日を除く毎日、ワークショップ・実験ショー等を実施した。

#### (8) 実験・工作プログラム開発

館外でのイベント向けプログラムとして「分光の基本と応用」「空気のパワーでふしぎ☆実験！」などを、ステークホルダーとの連携もしくは、館オリジナルとして開発し、JASIS2017（分析・科学機器専門展示会：幕張メッセ）などで実施した。これらのイベントには延べ約200名の参加があった。

#### (9) その他

##### ①「職場訪問」「体験学習」等

全国からの中学校3校と高等学校1校の職場体験、体験学習等を受け入れた。

##### ②インターンシップの受け入れ

8月に産業能率大学および学習院大学の学生を受け入れ、館内イベント運営等に当たった。

7月～8月に国際インターンシップとして仏国ESSEC(エセック経済商科大学院大学)より学生を受け入れ、英語による展示室ガイダンスシート作成等に当たった。

## II. [公益目的事業2] 他館の運営管理事業

科学技術館の運営経験を基に、科学館、博物館等の教育文化施設の運営を行うことにより、科学知識の普及啓発に貢献した。

### 1. 所沢航空発祥記念館の運営 (埼玉県受託事業)

常設展示の運用、特別展・公開講座・工作教室等のイベント開催などの運営や航空遺産の収集・保存・管理などの学芸活動を行った。

## (1) 展示館の運営

特別展を春夏秋冬に開催し、年間を通じて工作教室、公開講座、YS-11や格納庫の一般公開等の各種イベントを実施し、入館者数の増加と顧客満足度の向上に努めた。

### ①特別展

#### 1) 春季

「日本-仏蘭西・百年飛行の旅」

会期：2016年12月3日～2017年4月9日 1,821人 (39,442人)

※上記特別展の人数は2017年度分のみ、( )は会期中合計

#### 2) 企画展

「エールフランス航空～旅の美学」

会期：2017年4月18日～5月28日 22,974人

#### 3) ゴールデンウィークに係る関連イベント

「ワークショップコーナー及び展示館内における実験・工作教室」

会期：2017年4月29日～5月7日 783人

#### 4) 写真展

「青木勝 YS-11名機伝説」

会期：2017年6月10日～7月9日 7,380人

#### 5) 夏季

「飛行機研究所から100年『航空技術のDNAの継承と進化』～クルマに生きる飛行機の技術～」

会期：7月22日～9月3日 20,754人

#### 6) 秋季

「空にトキメキ展」

会期：12月2日～2018年4月8日 34,384人

※上記の特別展の人数は2017年度分のみである。

②工作教室 : 24回、718人

③YS-11一般公開 : 4回、3,058人

④格納庫一般公開 : 6回、4,614人

⑤公開講座 : 3回、153人

⑥「青少年のための科学の祭典」所沢大会 : 1回、1,500人

## (2) 大型映像館の運営

魅力ある作品を選定、映像フェスティバルの開催を通じて、映像作品のバリエーションの充実を図ることで入館者数の増加と顧客満足度の向上を図った。

①春季通常作品上映 : 4月1日～6月30日 9,798人

GWフェスティバル作品上映 : 4月22日～5月7日 (人数は上記中に含まれる)

②夏季通常作品上映	: 7月 1日～ 9月 30日	2,821人
夏休みフェスティバル作品上映	: 8月 1日～ 9月 18日	(人数は上記中に含まれる)
③秋季通常作品上映	: 10月 1日～12月 28日	7,734人
④冬季通常作品上映	: 1月 2日～ 3月 31日	4,627人
冬季フェスティバル作品上映	: 3月 25日～ 3月 31日	(人数は上記中に含まれる)
⑤平成30年新春特別上映会	: 1月 2日、3日	175人
⑥特別無料上映会	: 3月 18日、21日	300人
⑦第58回科学技術映像祭入選作品上映会	: 9月 16日～ 9月 24日	91人

### (3) 大型映像館関連催事の開催

大型映像館上映作品に関連する催事を以下のように実施した。

①「さかなクン ギョギョッとお魚教室2017」	: 6月 25日	317人
②「名探偵コナン 謎解きチャレンジ!」	: 7月 15日～8月 31日	
③「ディノアライブ」	: 9月 18日	1,461人

### (4) 連携活動

埼玉県博物館連絡協議会、日本ジャイアントスクリーン協会等の団体に参加し、各博物館及び大型映画関係者との連携を深め、情報交換を行った。

### (5) 利便性の向上

各種割引チケット・各種パスポート等を発行し、利用者の利便性を高めることにより入館者数の増加に努めた。また、春休み・ゴールデンウィーク・夏休みなどの繁忙期における営業日・営業時間は柔軟で弾力的な運営を図ることにより利用者ニーズに応えた。

### (6) 広報活動

アンケート結果に基づく来館動機および費用対効果の高い広報活動を行い入館者数の増加を図った。公園内の広報の強化、画像を多用した訴求力の高いホームページへのリニューアル、facebook や instagram を活用した情報拡散、大型映像館での本編上映前の宣伝として、特別展・イベントや次回作のトレーラーの上映等、視認率の向上による広報の強化を図った。

### (7) 団体誘致活動

埼玉県及び都内近郊の幼稚園、小・中学校等の団体にパンフレット、リーフレットを配布した。

### (8) 普及啓発活動

- ①学習プログラム(学習ノート、展示ガイドツアー)を新たな利用者、リピータ向けに実施した。
- ②ワークショップ・実験ショーを開催し、入館者数の増加に結び付く活動を展開した。
- ③友の会「キッズ・チャレンジ倶楽部」活動を、小学3年～6年生対象に今年度も引き続き実施し、「科学する心」を育て、「創る喜び」を体験させるため、航空科学を中心に工作教室・実験教室・自然観察教室・航空関連施設見学会等の活動を年間を通じて実施した。

開催教室数： 31回、 参加者数：1,067人

### (9) ボランティア活動の充実

入館者サービスの一層の向上を目的として、ボランティア活動の充実を図った。

## (10) 収蔵資料を用いた他施設等への協力

- ①岐阜県・かかみがはら航空宇宙博物館の新規展示物である十二試艦上戦闘機レプリカを紹介する画像展示として当館所蔵の堀越二郎関係資料の中から当該機体の画像資料を提供した。
- ②東京都立川市が平成 30 年度末に刊行を予定している『新編立川市史 絵図・地図編』に当館所蔵「飛行第五連隊建物配置図」の写真を提供した。
- ③有限会社モデルアート社発行の書籍「飛燕 修復の記録（機体編）」（川崎重工業株式会社 原稿作成）に当館所蔵の八八式偵察機の日丸部分、「飛燕」の残骸の写真を掲載した。

## (11) その他の活動

- ①記念館のサービス施設として、スーベニアショップ及びカフェレストランの運営を行った。
- ②所沢メモリアルギャラリーの中の財団が設置した展示物「所沢飛行場南倉庫」コーナーを埼玉県に寄附した。また財団が機器構成、ソフトウェアの内容等を改修した展示物「空のQ&A」を埼玉県に寄附した。
- ③埼玉県が実施したYS-11機の部分塗装、「施設長寿命化計画」の一環である館長室、アテンダント室、事務室、研修室、映写室等の空調機器更新工事、記念館本館及び格納庫屋根の防水工事に協力した。
- ④音声ガイドシステム(日本語、英語、仏語)の運用を行った。
- ⑤財団が購入し埼玉県の備品とした募金箱「くるくるコイン」をロビーに設置した。
- ⑥所沢市主催の「空飛ぶ音楽祭」に協力して大型映像館で「ザ・ビートルズ EIGHT DAYS A WEEK The Touring Years」を上映した(9月23日、24日)。
- ⑦所沢市に所在する防衛医科大学校出身の金井宣茂・宇宙飛行士の搭乗するソユーズ宇宙船の打上げライブ中継(パブリックビューイング)を大型映像館で行った(12月17日)。
- ⑧特別展「空にトキメキ展」に関連して埼玉県が制作した日本の航空史のDVD作品「航空100年 空の歴史は埼玉から始まった」を1月から3月の土曜日を中心に大型映像館で無料上映した。

## (12) 入館者状況

2017年度の入館者数、前年度との比較は以下の通り。

入館者数	団体件数	団体人(人)	個人(人)	総入館者数(人)
2017年度	390	22,331	159,648	181,979
2016年度	393	20,963	186,143	207,106
前年度比増減	-3	-1,368	-26,495	-25,127

## 2. 青森県立三沢航空科学館 (青森県受託事業)

### (1) 展示物の保守・点検・修理

展示物の異常や故障などを未然に防ぎ、正常な稼動と安全運転を確保するため、展示物の保守点検を年4回実施した。

### (2) イベントの開催等

生き物が持つ仕組みを利用した製品や技術を展示、紹介した特別展「生き物から学ぼう！展」を7月15日から9月24日まで開催した。

### Ⅲ. [公益目的事業3] 他館に対する活動支援事業

科学技術館の運営経験を基に、科学館、博物館等の教育文化施設に対して、それら施設の新規設置や更新、あるいは新たな「活動づくり」にあたってのコンセプト作りなどの支援を総合的に行った。

#### 1. 鳥取市博物館常設展示装置保守点検業務 (公益財団法人鳥取市文化財団受託事業)

鳥取市文化財団より鳥取市歴史博物館常設展示装置保守点検業務を受託し、常設展示装置の保守点検を年4回実施した。

#### 2. 株式会社明治イベントツール制作 (株式会社電通パブリックリレーションズ受託事業)

株式会社明治が展示会で使用するPR用グラフィックを制作した。

#### 3. プレアデス導入館に関する保守メンテナンス事業

以下の施設における保守メンテナンス事業を完了した。

- (1) 日立シビックセンター「天球劇場」保守点検業務 (公益財団法人日立文化情報財団委託事業)
- (2) 山梨県立科学館プラネタリウム保守点検業務 (公益財団法人山梨県青少年協会委託事業)
- (3) プラネタリウムシステムソフトウェア保守(番組制作支援) (川崎市委託事業)
- (4) 岡三証券神楽洞夢保守点検業務 (株式会社岡三証券グループ委託事業)
- (5) サイエンスヒルズこまつ3Dスタジオ保守点検業務 (小松市委託事業)

#### 4. 特殊投影用映像補正ソフトウェアインストール調整 (丸文株式会社)

自動車メーカー向けのソフトウェアの実機シミュレーションシステムへのインストール調整作業を行い完了した。

#### 5. 科学技術館シンラドームシステム更新

科学技術館シンラドームの映像・音響等システム一式を設計施工し、機能・性能を大きく向上させた。

#### 6. 特殊投影用映像補正ソフトウェア販売 (丸文株式会社)

- (1) 自動車メーカー向けのソフトウェア販売を行った。来年度は実機シミュレーションシステムへのインストール調整作業が予定されている。
- (2) 来年度に向け、丸文株式会社と共に上記と別の自動車メーカーへの提案を行っている。

#### IV. [公益目的事業4] 科学技術系人材の育成事業

科学技術体験イベント、国際科学オリンピックなど、科学技術への興味関心を引き起こすレベルから専門家をめざすレベルまで、広範な活動を通して科学技術系人材の育成事業を実施した。

##### 1. 青少年のための科学の祭典 2017

青少年のための科学の祭典は、当財団の提唱により 1992 年に開始され、草の根的な理科実験のイベントとして、26 年の歴史を数え、全国各地で展開している。当年度は、中外製薬株式会社などの支援を得て、科学技術館における全国大会をはじめ、75 市町村で、自主大会が開催された。参加者数は 322,558 人に及ぶ。

###### (1) 青少年のための科学の祭典 全国大会 (科学技術館)

会期 7 月 29 日、30 日、入場者数 16,397 人、出展数 65 (個人 31、企業団体 25、学生科学賞 5、放射線教育事業 4)

なお、2018 年度においては、国立青少年教育振興機構が実施する「こどもゆめ基金」からの助成が決定している。

###### (2) 青少年のための科学の祭典 地方大会

自主大会として北海道から沖縄まで、75 市町村で開催された。

##### 2. 国際科学オリンピック

国際科学オリンピックは、大学入学前の生徒を対象にして、第 2 次大戦後、東欧でスタートした。現在では、高校生にとって、科学ではもっともチャレンジングな目標となり、世界各国において、国際科学オリンピックをめざした活動が展開されている。当財団では、生物学オリンピック業務を行った。

###### (1) 生物学オリンピック業務

###### ① 日本生物学オリンピック 2017 の開催

1) 予選 : 7 月 16 日に全国 105 会場で実施、3,849 人が参加。本選に参加する 80 人を決定。

2) 本選 : 8 月 19 日から 22 日、広島大学において開催、80 人が参加。

成績優秀者、金賞 10 人、銀賞 10 人、銅賞 20 人を表彰。

この中から 2019 年 7 月にイランで開催される第 29 回国際生物学オリンピックイラン大会に出場する日本代表候補者として 16 人を選抜、12 月に冬期特別セミナーを開催、3 月に代表選抜試験を実施後、日本代表 4 人を決定した。

###### ② 第 28 回国際生物学オリンピック (イギリス大会) への日本代表団派遣

7 月 22 日から 31 日にかけてイギリスで開催された第 28 回国際生物学オリンピックに、日本代表 4 人および引率者から成る代表団を派遣。世界 64 カ国・地域から 241 人の生徒が参加。日本代表は、銀メダル 4 人の成績であった。

### 3. 教員のための理科実験指導育成講座開催(公益財団法人東京応化科学技術振興財団助成事業)

学校における教員の理科実験スキル向上を目的として、ベテラン教師による実践的な理科実験の極意を指導し、授業や社会教育活動に役立つ講習会を科学技術館「実験工房」で物理・化学・生物・地学の分野別に各2回開催した。(参加者：延べ135人)

なお、2018年度についても、助成を受けることが決定している。

### 4. 少年少女創造性育成事業 (公益財団法人新技術開発財団受託事業)

第48回市村アイデア賞受賞者を対象とした表彰式、入選作品の展示を11月17日に科学技術館で行い、小中学生を対象とした複写機を題材としてその原理と分解を行うワークショップを、2017年12月にくまもと県民交流館パレア(熊本市)、2018年3月に科学技術館にて計2回開催した。

### 5. ボーイングSTEMイベントの開催

ボーイング社の助成を受けて、科学技術を総合的に体験・学習するSTEM教育(科学<Science>、技術<Technology>、工学<Engineering> & 数学<Mathematics>)の日本での展開に取り組んでいる。そのひとつとして、シアトル航空博物館のサイエンスショー「フライング・ゴズモショー」とワークショップを主なプログラムとして、松阪市立松尾小学校(11月20日)、科学技術館(11月23日)、さいたま市立浦和大里小学校(11月24日)の3会場にて開催した。

11月20日 : 松尾小学校(三重県松阪市)

11月23日 : 科学技術館(東京都千代田区)

11月24日 : 浦和大里小学校(埼玉県さいたま市)

## V. [公益目的事業5] 科学技術の普及啓発事業

科学技術映像祭、サイエンスフィルムカフェ、各種工作機器類・測定装置の整備、エネルギー・放射線等理解増進事業等、広範囲な科学技術の普及啓発事業を実施した。

### 1. 科学技術映像祭

#### (1) 第58回科学技術映像祭

①「自然・暮らし部門」「研究開発部門」「科学技術教育・教養部門」の3部門に、25機関から43作品が出品され、内閣総理大臣賞に「日本のチカラ#60 つかまれ!のぼれ!~カエルと少女とシュロの糸~」(企画:公益財団法人民間放送教育協会/製作:山口放送株式会社)、文部科学大臣賞3作品、部門優秀賞6作品、特別奨励賞1作品、ファーウェイ賞1作品の表彰を決定した。

②各賞表彰式(4月21日)と入選作品上映会(4月20日、21日)を科学技術館サイエンスホールにおいて開催した。これらの入選作品は、全国の14科学館で上映会を行った。

#### (2) 第59回科学技術映像祭

「自然・暮らし部門」「研究技術開発部門」「教育・教養部門」の3部門に、37機関から54作品が出品され、内閣総理大臣賞に「奇跡の子どもたち 寝たきりの希少難病の患者と家族を10年間追った“感動のドキュメント”」(企画・製作:株式会社タキオンジャパン)、文部科学大臣賞3作品、部門優秀賞6作品、特別奨励賞2作品、ファーウェイ賞1作品、科学技術館館長賞1作品の表彰を決定した。

## 2. エネルギー・放射線等に関する理解促進事業

- (1) 中学校理科新学習指導要領による「放射線」教育を実施する教師を支援するために各種情報を提供する放射線教育支援Webサイト「らでい」を運用するとともに、教員研修や放射線出前授業等を実施した。
- (2) 「青少年のための科学の祭典」全国大会及び地方大会にエネルギー・放射線実験ブースを出展した。
- (3) 文部科学省の放射線に関する教職員セミナー及び出前授業実施事業を全国の小学校・中学校・高等学校等で142回実施し、9,241人が受講した。
- (4) 資源エネルギー庁のエネルギー教育推進事業を実施した。エネルギー教育に意欲的に取り組もうとする小学校・中学校・高等学校88校を「エネルギー教育モデル校」として選定し、エネルギー教育を実践させるとともに、エネルギー教育に関する副教材の配布、地域会議の開催、かべ新聞コンクール等を実施した。

## VI. [公益目的事業6] 科学技術振興に関する調査研究事業、

## VII. [公益目的事業7] 科学技術の研究開発とその促進事業

科学館、博物館等の来館者調査、教育プログラムの試作・試行など、事業評価の実施及び事業の企画立案等に向けて調査研究を行った。広報活動としては、広報誌「JSF Today」、科学技術館メールマガジン等を発行した。

### 1. 調査研究

#### (1) 「青少年のための科学の祭典・全国大会」来場者、出展者アンケート調査の実施

7月29日から30日まで「青少年のための科学の祭典」全国大会にて来場者調査を行った。

回答者数：子ども766人、大人505人、出展者76人、補助スタッフ50人

#### (2) 「映像技術を使ったサイエンスショー」の実演

科学技術館の新たな試みのひとつとして、拡張現実技術「AR」を使ったサイエンスショーを開催した。

### 2. 広報活動

科学館、博物館等の来館者調査、教育プログラムの試作・試行など、事業評価の実施及び事業の企画立案等に向けて調査研究を行った。広報活動としては、広報誌「JSF Today」、科学技術館メールマガジ



ン等を発行した。

### (1) プレスリリース

4月 第58回科学技術映像祭・表彰式・特別シンポジウム「科学技術映像とともに」開催。

7月 青少年のための科学の祭典」2017全国大会開催。

さわれる！あそべる！算数・数学展！夏休み特別展「マスレチック・ランド」開催。

10月 シアトル航空博物館がやってくる「ボーイング STEM プログラム in ジャパン」開催。

12月 第59回科学技術映像祭」参加作品の募集開始。

常設展示室「ニュー・エレクトロホール〈サイバー・リンク〉」フルオープン。

### (2) 「JSF Today」の発行

No.144 「海の宝を探しに ～特別展『たからのうみ と うみのたから展』」（2017年4月発行）

No.145 「新生『シンラドーム』へようこそ」（2017年7月発行）

No.146 「数と図形をもっと楽しもう！～特別展『マスレチック・ランド』」（2017年10月発行）

No.147 「サイバー・フィジカル・ワールドへ」（2018年1月発行）

発行部数 各1,000部

### (3) メールマガジンの発行

624号(4月5日)から672号(3月28日) 配信数11,056通(3月28日現在)

### (4) twitterによる情報発信

フォロワー数2,618人(3月26日現在)

## VIII. [収益事業1] 情報システムの設計開発と運用サービス事業

データベース技術、ネットワーク技術、解析・シミュレーション技術、インターネット技術などを基に、官公庁及び関連機関をはじめとして、民間企業や通信教育団体等から、情報システムの設計開発業務や運用サービス業務を受託して実施した。この事業は、当財団の収益事業として財政基盤を支えることをめざしている。実施した主な業務は次のとおりである。

### 1. 情報システムの設計開発

#### (1) データベース技術やネットワーク技術を応用した情報システムの設計開発

##### ①会計検査院

調査表管理システム運用保守業務、総合検索システム運用保守業務

##### ②学校法人産業能率大学

標準システム開発、案件・公開システム開発、学生向けWebサイト開発

##### ③株式会社ニッセイコム

日本芸術文化振興会向けシステム開発・保守

##### ④株式会社イセト

DCPS ツール申込システム企業型開発、三井住友海上あいおい生命 家族 Eye 開発、J-PEC ツール申込個人型 SK 改修

⑤株式会社片平エンジニアリング

片平 PASS システム開発

(2) 設計製造、製品管理関連ソフトウェアの設計開発

①株式会社電通国際情報サービス

PLM 技術支援業務

(3) その他

①国立研究開発法人科学技術振興機構

産学官ジャーナルアップロード支援

## 2. 情報システムの運用サービス

(1) 中外製薬株式会社、オムロン株式会社

LMS (Learning Management System) の運用業務

(2) 学校法人産業能率大学、職業訓練法人日本技能教育開発センター

通信教育 Web 受講申込システムの運用業務

(3) 一般社団法人電子情報技術産業協会

統計システムのデータ登録・運用業務

(4) 学校法人産業能率大学

会計決算システム運用業務

(5) 通信教育団体

成績報告支援サービス

(6) 株式会社イセトー

金融系 Web システム運用業務

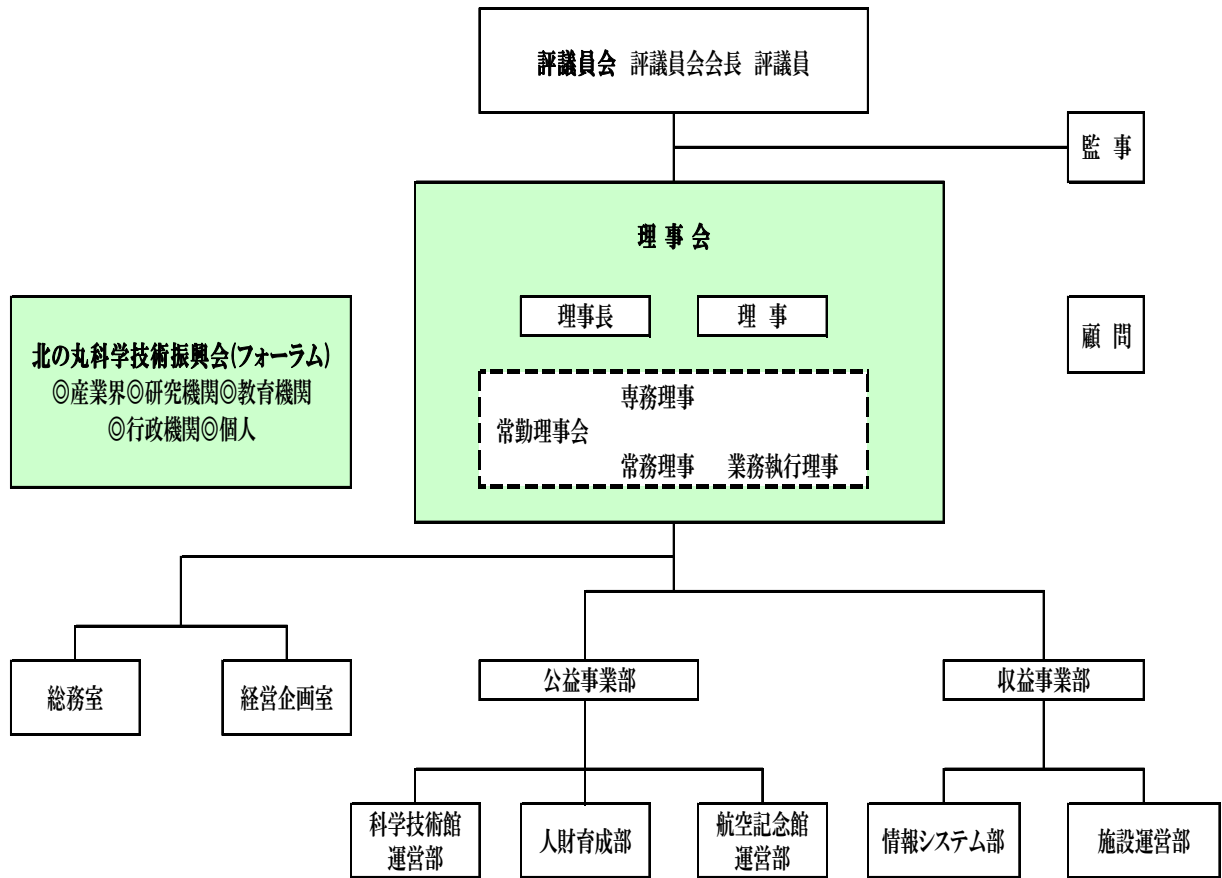
## IX. [収益事業 2] 科学技術館施設の利用促進事業

当財団では、科学技術館の施設の一部を貸し出している。1 階の展示・イベントホールは、各種の販売会、技術展、製品発表会、イベント等、地階のサイエンスホールは、土日はアニメ等の各種イベント、平日は講演会、セミナー、研修会等に貸し出している。また、5 階、6 階の会議室も貸し出している。この事業は、収益事業として経営しており、公益目的事業の継続実施の要となる重要な事業である。

今年度は、昨年度に引き続き各施設を利用していただく顧客ニーズを把握し、満足度を向上させる取組みを行うことにより、継続的需要、更には新規需要に結び付けるように活動した。

【総合活動】

1. 当財団の組織 (2018年3月31日現在)



2. 代表理事及び業務執行理事の業務分担 (2018年3月31日現在)

氏名	業務執行理事	役職	業務分担
榊原 定征	代表理事	理事長	法人代表
吉田 忍	代表理事	専務理事	法人代表 航空記念館運営部担当(兼)、 所沢航空発祥記念館館長
植木 勉	業務執行理事	常務理事	科学技術館運営部担当(兼)、 人財育成部担当(兼)、 人財育成部部長
新元 一弘	業務執行理事	理事	総務室担当(兼)、 経営企画室担当(兼)、 情報システム部担当(兼)、 施設運営部担当(兼)、 建設工事の請負に係る業務担当

### 3. 会議の開催

#### (1) 定時評議員会及び臨時評議員会の開催

##### ①第7回定時評議員会 2017年6月27日

- 議案1. 2016年度の決算書類の承認の件
- 議案2. 評議員選任の件
- 議案3. 理事選任の件
- 議案4. 監事選任の件
- 議案5. 監事に対する報酬支払承認の件

##### ②第8回臨時評議員会 2018年3月14日

- 議案1. 評議員選任の件
- 議案2. 定款並びに評議員会運営規則の一部変更の承認の件

○上記の評議員会に付議された議案は、いずれも承認可決されました。

#### (2) 通常理事会、臨時理事会及び書面理事会の開催

##### ①第7回臨時通常理事会 2017年5月26日

- 議案1. 2016年度の事業報告及び決算書類の承認の件
- 議案2. 定時評議員会の招集の件
- 議案3. 理事会提案として評議員会に提案する評議員候補者の決定の件
- 議案4. 理事会提案として評議員会に提案する理事候補者の決定の件
- 議案5. 理事会提案として評議員会に提案する監事候補者の決定の件
- 議案6. 2017年度補助・助成事業実施に関する件

##### ②第13回通常理事会 2017年6月23日

- 議案1. 代表理事選定の件
- 議案2. 理事長及び専務理事各1名選定の件
- 議案3. 理事長職務代行順位の決定について
- 議案4. 業務執行理事の選定の件
- 議案5. 常務理事の選定の件
- 議案6. 業務執行理事の業務分担決定の件
- 議案7. 理事の報酬額の決定の件
- 議案8. 顧問選任の件

##### ③第11回書面理事会 2017年11月27日

- 議案1. 「重要な組織の変更について」
- 議案2. 「重要な使用人の選任について」

##### ④第12回書面理事会 2018年2月22日

- 議案1. 定時評議員会の招集について
- 議案2. 理事会提案として評議員会に提案する評議員候補者の決定について

⑤第14回通常理事会 2018年3月23日

議案1. 2018年度事業計画及び予算書等の承認の件

議案2. 特定費用準備資金等の保有に係る承認の件

議案3. 関連規則類の一部変更に係る承認の件

○上記の理事会(書面理事会を含む)に付議された議案は、いずれも承認可決されました。

**(3) 顧問会議の開催**

開催なし

**(4) 常勤理事会の開催**

定款第41条第2項及び常勤理事会運営規則に基づいて、毎月2回(原則)、常勤の理事3名による常勤理事会を開催して、理事会決定による事業計画に従い、重要事項の審議、決定を行い、また各事業の報告により情報の共有を図っている。会議の資料及び結果については、電子メールにより、理事及び監事の全員に送付している。

**4. その他**

- (1) 経営課題の推進
- (2) 機構改革の見直しと推進
- (3) 事業予算および要員予算編成方針策定
- (4) 四半期毎の業績検討会の実施
- (5) 事業損益改善の推進
- (6) 科学技術館老朽化対策の更新
- (7) 科学技術館耐震化工事計画の策定と第1期耐震化工事の開始

— 以上 —